2025 年 11 月 20 日

日本船主協会

シップリサイクルに関する国際フォーラムに参加

当協会は 11 月 18 日（火）～19 日（水）に香港で開催された TradeWinds Ship Recycling Forum 2025 に参加し、IMO 事務局、関係国政府当局、船主協会、船社、解撤ヤード、船級協会、金融機関など、幅広い関係者と意見交換を行いました。

本フォーラムでは、2025 年 6 月 26 日のシップリサイクル条約（香港条約）の発効を受けて、これまでの条約の執行状況や今後の課題について議論されました。

当協会からは、岩佐久美子解撤幹事長（川崎汽船㈱ 経営企画グループ 担当部長）が香港条約の各国の実施状況に関するパネルディスカッションに参加し、競争条件均衡化のための「批准国（現在 24 カ国）の拡大」や香港条約の実効性確保のための「EU シップリサイクル規則（EU-SRR）・バーゼル条約との整合」の必要性に加えて、日本の船主は設備投資や書面上の条約認証のみならず実作業のモニタリングを行っており環境面・労働条件面などの観点から真のグリーンヤードへの売却を志向していることを紹介し、「ヤード改善に向けた更なる努力の必要性」等について訴えました。

その他のセッションでは、日本政府より、当協会と同様に香港条約を実効性あるものとするため、関係者の引き続きの協力が不可欠であること、また、将来の条約改正を進める上では IMO における議論を基礎とする必要性が指摘されました。加えて、日本海事協会からは、ヤード作業の自動化に向けた期待などについての発言がありました。

パネルで発言する岩佐幹事長（右から 2 人目）

フォーラムの模様

以上